

## 善いサマリア人

ルカによる福音書 10:25-37

(そのとき、) ある律法の専門家が立ち上がり、イエスを試そうとして言った。「先生、何をしたら、永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか。」イエスが、「律法には何と書いてあるか。あなたはそれをどう読んでいるか」と言われると、彼は答えた。「『心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい』とあります。」イエスは言われた。「正しい答えだ。それを実行しなさい。そうすれば命が得られる。」しかし、彼は自分を正当化しようとして、「では、わたしの隣人とはだれですか」と言った。イエスはお答えになった。「ある人がエルサレムからエリコへ下って行く途中、追いはぎに襲われた。追いはぎはその人の服をはぎ取り、殴りつけ、半殺しにしたまま立ち去った。ある祭司がたまたまその道を下って来たが、その人を見ると、道の向こう側を歩いて行った。同じように、レビ人もその場所に来て来たが、その人を見ると、道の向こう側を歩いて行った。ところが、旅をしていたあるサマリア人は、そばに来ると、その人を見て憐れに思い、近寄って傷に油とぶどう酒を注ぎ、包帯をして、自分のろばに乗せ、宿屋に連れて行って介抱した。そして、翌日になると、デナリオン銀貨二枚を取り出し、宿屋の主人に渡して言った。『この人を介抱してください。費用がもっとかかったら、帰りがけに払います。』さて、あなたはこの三人の中で、だれが追いはぎに襲われた人の隣人になったと思うか。」律法の専門家は言った。「その人を助けた人です。」そこで、イエスは言われた。「行って、あなたも同じようにしなさい。」

### 説教

きょうの福音はある意味「わかりやすい」福音です。もっともユダヤ律法と

かユダヤとサマリアの対立構図など、あるていどのキリスト教理解がないとすんなりとわからない点がありますが「困っている人を助けましょう」はわかりやすいテーマです。

**彼は自分を正当化しようとして、「では、わたしの隣人とはだれですか」と言った。**

ルカ 10:29

わたしの隣人とはだれですか？という専門家の問いに対して、イエスはたとえ話をとおして、隣人とは誰かと問う前にあなたが隣人になりなさい、と教えます。隣人愛とはだれを愛せばいいのかを考えるのではなく、過去のいきさつはどうあれ困っている人（弱者）を救うことだといえます。

このイエスの隣人愛理解はキリスト教社会を中心にいまも実行され、世の中は善い世界になってきています。

律法の専門家は正しい答えを知っていましたが正しい行いができませんでした。その一方でイエスの教えを受け継ぎ、サマリア人を手本とした隣人愛活動はキリスト教社会を中心に世界に広まりました。律法自体に過誤がないのに律法専門家が過ちを犯したとすれば、イエスのたとえ話には間違いはありませんが、サマリア人をお手本にする隣人愛活動は誤りを犯すこともあるかもしれません。

たとえ話で強盗被害にあった人はよきサマリア人に助けられます。それから後、多くの弱者たちもよきサマリア人を手本にした活動によって助けられてきました。歴史上、たびたび教会は過ちを犯しましたが、その都度立ち返って過ちを認め正してきました。サマリア人を手本とする隣人愛活動も同じように過ちを犯しそれを正してきたはずです。だからいつでも、イエスの教えに立ち帰りこれからもよきサマリア人のように行っていきましょう。でも、ほんとうにそれでいいのでしょうか？律法の専門家はどうしても誤りを犯します。イエスの教えに忠実におこなおうとすれば、サマリア人を手本にすることに熱心になればなるほど、どうしてもサマリア人専門家になっていく、この原理主義傾向は人にはどうしようもできない道のように見えます。弱者

の視点にたってイエスの教えを見直す道を照らしてください。

-----